

# アナリスト レポート

## 緩やかな回復基調にあるものの、 足踏み状態が続いている

しがぎん  
経済文化センター  
(産業・市場調査部)

### 県内景気天気図



凡例



### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、プラスチック製品や輸送機械などは低下したものの、はん用・生産用・業務用機械や食料品などが上昇したため、前月比では2か月連続で上昇している。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は全店ベースでは家電機器を除き他の品目がすべて前年を下回り、4か月連続で減少、既存店ベースでも3か月連続で減少している。他の小売業態では、ドラッグストアの販売額は46か月連続の増加で好調が続く、コンビニエンスストアも3か月連続で増加しているものの、家電大型専門店が3か月ぶり、ホームセンターは3か月連続でともに前年を下回ったため、小売業6業態計売上高は3か月連続で減少している。しかし、乗用車の新車登録台数は8か月連続で増加し、軽乗用車の新車販売台数は3か月ぶりに増加に転じた。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は、鉱工業用と商業用はともに減少したものの、サービス業用が3か月ぶりに大幅増加したため、3業用計では3か月ぶりの増加となった。一方、新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりに増加したが、貸家が2か月連続、分譲住宅が5か月ぶりに、ともに低水準かつ大幅の減少となったため、全体では2か月連続で大幅減少した。また、公共工事の請負件数は2か月連続で減少、金額は4か月ぶりの大幅減少となった。

このような中、雇用情勢をみると、有効求人倍率

### 京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかに拡大している。個人消費は、緩やかに増加している。設備投資は、一段と増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、持ち直しつつある。生産、輸出は、高水準ながら足もとは弱めの動きがみられ

は引き続き高水準で推移しているが、新規求人倍率は前月に比べ大幅に低下した。また、常用雇用指数は10か月連続で減少している。今後の動向が注目される。また、2月に実施した県内企業動向調査によると、県内企業の業況判断DIは2四半期ぶりのプラスに回復したとはいえ、僅かな上昇にとどまっている(-1→+1)。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は在庫調整の進展がみられるものの、米中貿易摩擦の中国経済減速の影響などから弱含みの推移にとどまっている。需要面では、個人消費をはじめ民間設備投資や住宅投資では一部で堅調な動きはみられるが、全体に伸び悩んでいる。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調にあるものの、足踏み状態が続いているとみられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動は、米中貿易摩擦や中国経済減速の影響が懸念され、全体に弱含みの展開が続くものと考えられる。需要面では、10月からの消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が一部の耐久消費財や民間設備投資、住宅投資に出てくると思われるが、景気の先行き不透明感などから全体をけん引するほどの力強さは期待できない。したがって今後の県内景気については、国内需要は比較的底堅いと思われるが、海外経済の不確実性やそれに伴う景気の下振れが懸念されるため、緩やかな回復基調の中、しばらくは横ばいで推移するものと考えられる。

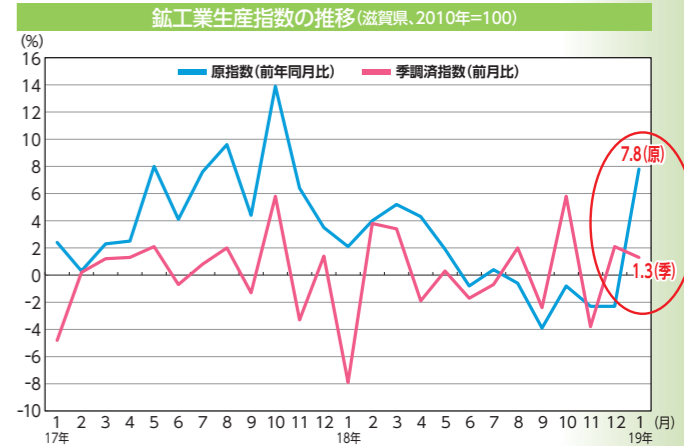
ている。労働需給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2019年3月8日発表)より】

### 「鉱工業生産指数」の前月比は 2か月連続で上昇

- ・鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」(2019年1月)は99.3、前年同月比+7.8%となり6か月ぶりに上昇し、「季節調整済指数」は110.9、前月比+1.3%で、2か月連続で上昇。しかし、季節調整済指数の3か月移動平均値(18年12月)は109.2、前月比-0.2%で、2か月ぶりに低下。
- ・業種別季節調整済指数の水準は、「化学」(148.2)や「はん用・生産用・業務用機械」(136.1)、「食料品」(125.1)、「パルプ・紙・紙加工品」(122.6)などは高水準。一方、「窯業・土石製品」(60.0)や「電気機械」(86.9)、「金属製品」(89.8)などは引き続き低水準。
- ・前月との比較では、「はん用・生産用・業務用機械」(前月比+7.1%、なかでも運搬機械、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置など)や「食料品」(同+5.3%、なかでも清涼飲料)などは上昇。

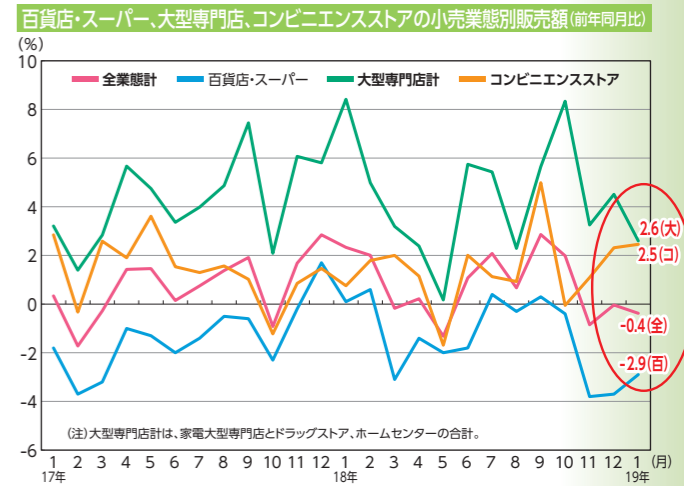
一方、「プラスチック製品」(同-7.2%、なかでもプラスチック製フィルム・シート)や「輸送機械」(同-2.6%、なかでも自動車部品、自動車・同ボデー)などは低下。



### 「小売業6業態計の売上高」は 3か月連続で減少

- ・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は97店舗)」(19年1月)は、23,501百万円、前年同月比-2.9%となり4か月連続で減少。品目別では、家電機器が3か月ぶりに増加したものの(同+1.3%)、ウエイトの高い食料品が3か月連続で減少したのをはじめ(同-1.7%)、衣料品は31か月連続(同-3.8%)、身の回り品は13か月連続(同-4.3%)、家庭用品は4か月連続(同-3.1%)で、それぞれ減少。「既存店ベース(=店舗調整後)」でも家電機器が3か月ぶりに増加したものの(同+3.5%)、他の品目はすべて減少し、全体では3か月連続で減少(同-2.4%)。
- ・「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、1月、196店舗)は、5,843百万円、同+10.3%で、46か月連続で増加しているが、「家電大型専門店」(同41店舗)は、3,753百万円、同-4.5%となり3か月ぶりに減少し、「ホームセンター」(同63店舗)も、2,851百万円、同-1.9%で、3か月連続で減少。「コンビニエンスストア販売額」(同567店舗)は、9,138百万円、同+2.5%で、3か月連続で増加。
- ・小売業6業態計売上高(1月)は、45,086百万円、同-0.4%で、3か

月連続で減少。「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(2月)は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が8か月連続で増加し(1,847台、同+9.4%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が2か月連続で増加したため(1,479台、同+5.2%)、2車種合計では8か月連続で増加(3,326台、同+7.5%)。「軽乗用車」は3か月ぶりに増加(2,416台、同+2.7%)。



### 「民間非居住用建築物着工床面積」は 3か月ぶりに増加

- ・「民間非居住用建築物着工床面積」(19年2月)は、「鉱工業用」は3か月連続で減少(12,475㎡、前年同月比-4.4%)、「商業用」は2か月連続で減少(10,679㎡、同-24.0%)、「サービス業用」は3か月ぶりに大幅増加(15,134㎡、同+187.5%)。3業用計では38,288㎡、同+18.2%で、3か月ぶりに増加。
- ・トラック新車登録台数(2月)は、「普通トラック(1ナンバー車)」が11か月連続で増加(129台、同+18.3%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」が6か月連続で増加(231台、同+12.7%)。2車種合計では11か月連続かつ大幅に増加(360台、同+14.6%)。

